



い次のような理由からである。

これまで、男が台所でゴソゴソすると、「ゴキブリ亭主」などと言われて、女たちからどちらかといえは敬遠されてきたにはわけがある。

一つには、いわゆる「男らしさ・女らしさ」という旧来的な性別役割分業意識に由来する違和感・抵抗感というものがある。

でも、それだけでなく、実際問題として、勝手に男に台所でチョロチョロされると、困ることも少なくない。

いわゆる「趣味として」の男の料理が女たちからそれほど歓迎されないのは、だいた

吉田 清彦

# アツカ そうなの 料理の カラクリ

◇2◇

## 家事としてのポイント

まず、作るのにとても時間がかかって、イライラしてしまう(なにしろ、「コチラはおながすいているのだ」)。

次に、どれだけ材料代が高くつくかが心配で、ハラハラする。

そして、女たちが男の料理を歓迎しない最大の理由は、

男たちは後片付けをしないので、それを考えるとウンザリして、食欲もなくなる、とい

い次のような理由からである。



### 短時間で無駄なく

### やりくり算段頭に

つものである。

おまけに、もう一つ加えて追い打ちをかけると、能書きほどにはおいしくなかったりする、ということもあ

るといっわけです。「たまたま」「気が向いた」「あるいは」「気分転換をかねて」といっわけの「な気まぐれな趣味としての」

男の料理は、結局は、あとが大変で、ありがた迷惑、はた迷惑という次第である。

別の言い方をすれば、つまり、いつも台所に入るには、

それなりのルールに従う必要がある、ということである。

そこで、家事としての男の料理のポイントをここで挙げておくと、まず、家事というものは、毎日の仕事である、といっわけである。そして、そ

ここで要求されるのは、「いかに手際よく(短時間で)」といっわけと、「いかに経済的に(安く、ムダなく)」といっわけである。

つまり、家事としての男の料理にまず要求されるのは、時間とお金のやりくり算段といっわけになる。

常識以前のことを付け加えておけば、おいしくて、栄養に富んでいる(すなわち、健康によいものである)ことは、いっわけではない。

(家事としての男の料理 主宰)